北太平洋と日本におけるさけ・ます類の資源と増殖

佐藤 恵久雄 (企画課情報係長)

1997年の北太平洋

漁獲数

NPAFC第6回年次会議での各国からの報告によると，1997年1-12月の北太平洋の漁獲数は3億8,800万尾で，地域別ではロシアが1億5,900万尾 (41%) と最も多く，以下アラスカ州の1億2,300万尾 (32%)，日本の8,100万尾 (21%)，カナダの2,000万尾 (5%) の順で，魚種別に見るとカラフトマスが2億2,900万尾 (59%) と過半数を占め，次いでサケが1億200万尾 (26%)，ベニザケが5,000万尾 (13%) と続き，これら3魚種で98%を占めています (図 1A).

人工ふ化放流数

1997年1-12月に人工ふ化放流された幼稚魚数は50億7,000万尾で，地域別では日本が21億尾 (41%) と最も多く，以下アラスカ州が13億6,000万尾 (27%)，カナダが6億5,000万尾 (13%)，ロシアが6億2,000万尾 (12%) と続いています．魚種別ではサケが29億3,000万尾 (58%) で半数以上を占め，これに次ぐカラフトマスの13億尾 (26%) と合わせると83%に達しています (図 1B).

1998年度の日本

サケ

1998年度の沿岸来遊数 (沿岸海面での商業漁獲と内水面での親魚捕獲の合計) は，昨年12月31日現在では6,000万尾で，過去3番目となった前年度同期と比べ81%となっており，1-2月の来遊分を加えると過去6番目の記録となる見込みです (図 2). 道県別では，北海道から宮城県に至るサケの多獲地域において前年度同期比90%を下回っており，日本海沿岸では逆に多くの県が前年同期を上回っています (図 3).

海区別にみると，北海道のオホーツク，根室海区は前年度より減少したものの最近10年間の中では比較的高位であるのに対し，他の5海区は最近10年間の中でも低位水準となっています (図 4).

人工ふ化放流に必要な種苗については，前年度同期比100%の21億9,800万粒でおおむね計画どおり採卵されており，前年度と同水準の18億5,000万尾程度の放流数になると予想されます.

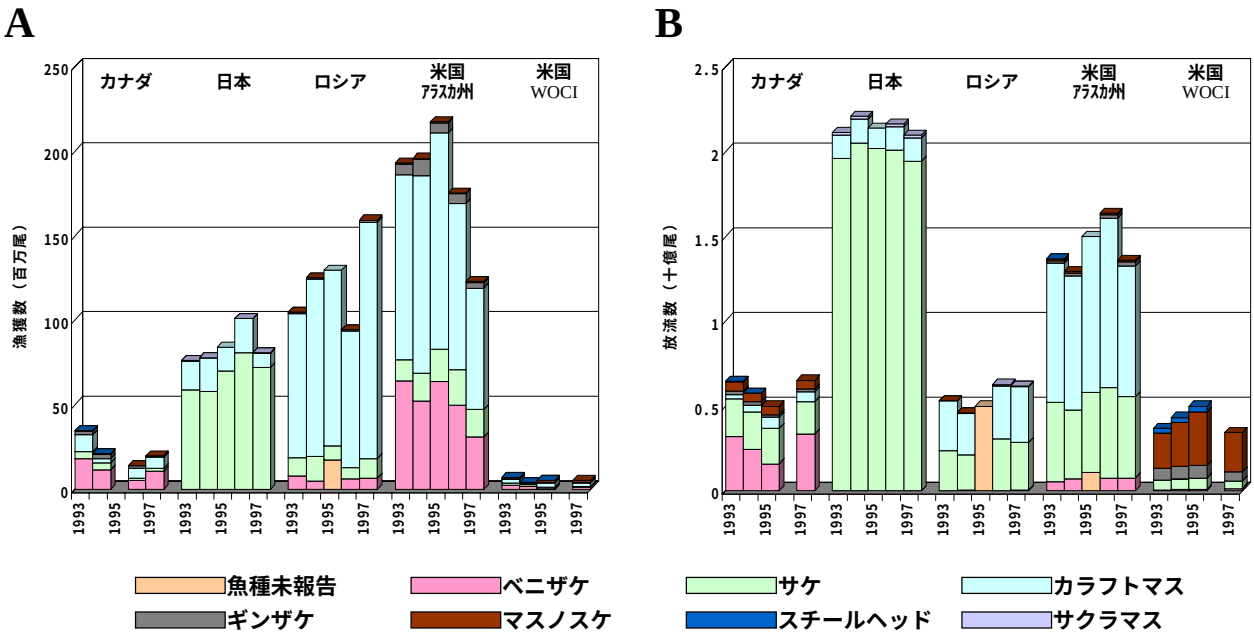


図 1. 1993-1997年の北太平洋におけるさけ・ます類の地域別魚種別漁獲数 (A) と人工ふ化放流数 (B)．1993-1994年は「NPAFC Statistical Yearbook」による商業漁獲数の確定値だが，1995年以降はNPAFC年次報告等で示された暫定値である．ロシアにはEEZ (排他的経済水域) で他国が漁獲したものを含む．WOCIはワシントン，オレゴン，カリフォルニア，アイダホ州の合計．カナダとWOCIの一部は当該年のデータが未報告のため示していない．

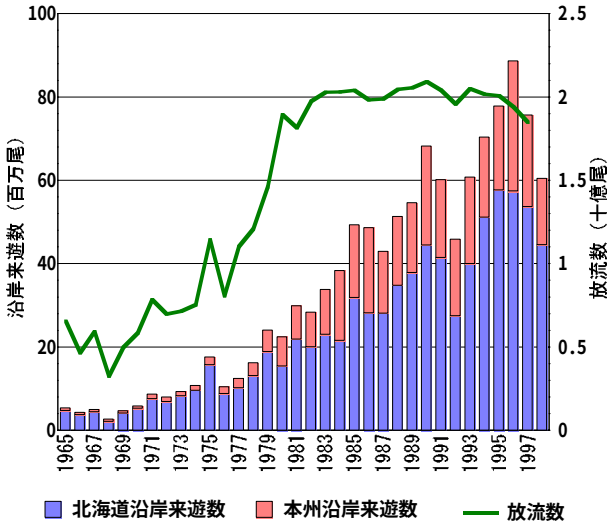


図 2. 1965-1998**年度の日本におけるサケの沿岸来遊数と人工ふ化放流数．**1997**年度は概数．**1998**年度は**12**月**31**日現在．**

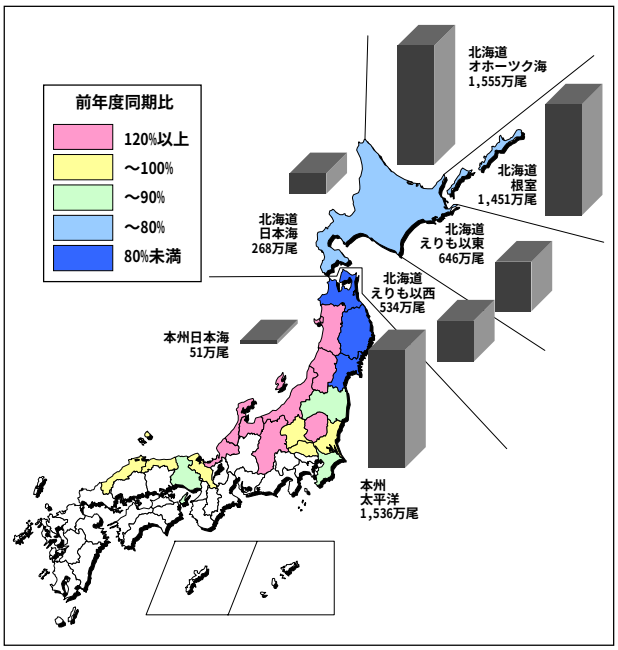
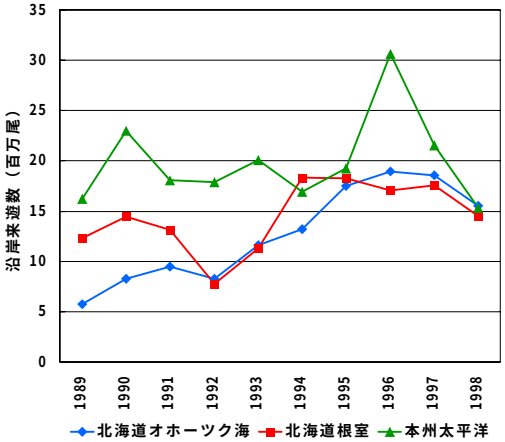
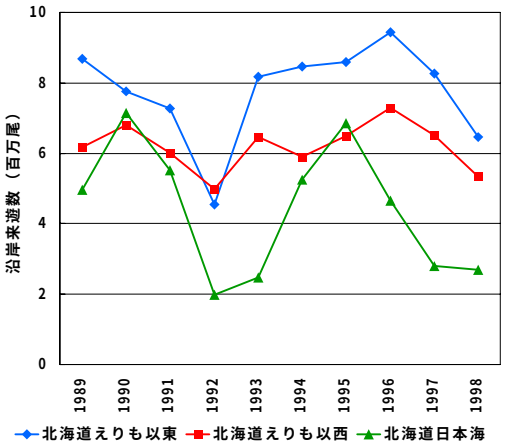


図 3. 1998**年**12**月**31**日現在の日本におけるサケの沿岸来遊数．直方体の高さは来遊数の相対的な大小，色分けは前年度同期比を示す．





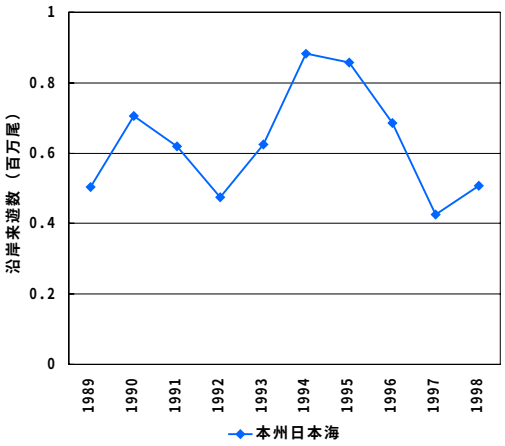


図 4. **最近**10**年間の日本におけるサケの海区別沿岸来遊数．**1997**年度は概数．**1998**年度は**12**月**31**日現在．

カラフトマス

主産地である北海道の1998年度の沿岸来遊数は1,300万尾で，前年が大きく落ち込んだこともあって前年の約2倍となりました．カラフトマスは1990年代に入ってから来遊数が急増するとともに，偶数年級群の来遊数が奇数年級群のそれを大きく上回る傾向が続いています．採卵数は1億7,000万粒でほぼ予定通りとなっており，放流数も計画通り1億3,000万尾程度になると見込まれます (図 5).

サクラマス

1998年度の北海道の河川捕獲数は1万4,000尾で，前年より30%ほど多くなりました．採卵数は1,100万粒で，ほぼ予定した数量を確保することが出来ました．なお，本州については現在調査中です (図 6).

ベニザケ

日本においては当センターのみが，北海道の3河川でベニザケの人工ふ化放流に取り組んでいます．1998年度の河川捕獲数は428尾，採卵数32万粒で前年よりは増えましたが，残念ながら1990年代前半に比べると少ない状態が続いています (図 7).

例えばサケの場合，日本での親魚回帰時期は8月から2月にかけてで，ここから得た種苗は翌年の1月から6月にかけて放流されます．サケの人工ふ化放流は親魚の捕獲から種苗の放流までを一つの周期としているため，1998年度の沿岸来遊数とは1998年8月から1999年2月にかけて来遊した尾数であり，1998年度の人工ふ化放流数とは1999年1月から1999年6月までに放流される尾数を指しています．このように，放流数の年度については通常用いられる3月末で区切る会計年度とは期間が異なるので注意が必要です．なお，NPAFCの統計は漁獲も人工ふ化放流も年 (1月から12月まで) を単位としています．

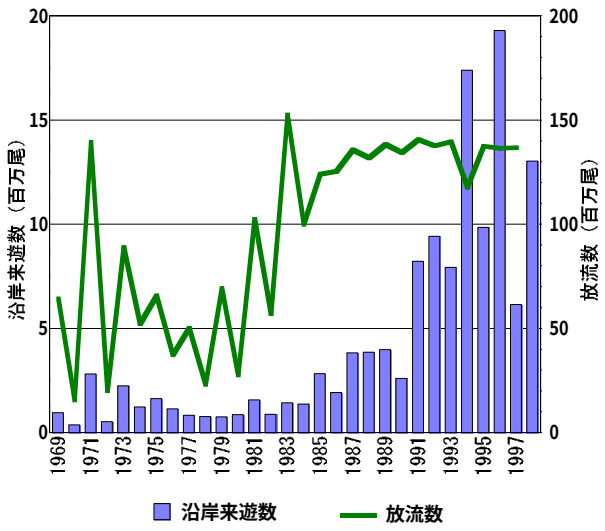


図 5. 1969-1998**年度の日本におけるカラフトマスの沿岸来遊数と人工ふ化放流数．**1997-1998**年度は概数．**

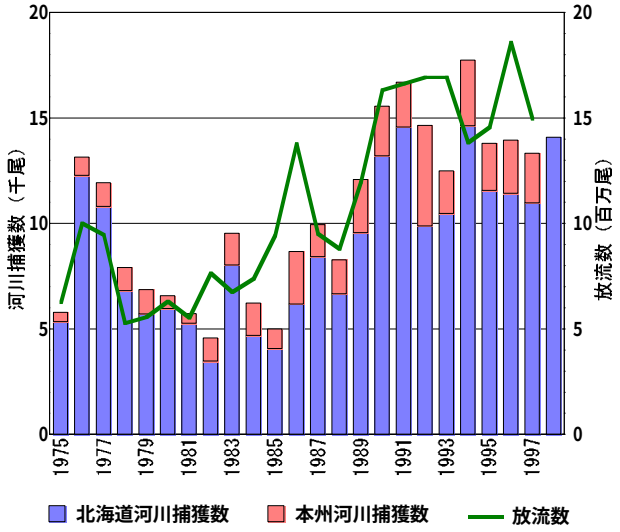


図 6. 1975-1998**年度の日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数．**1997-1998**年度は概数．**

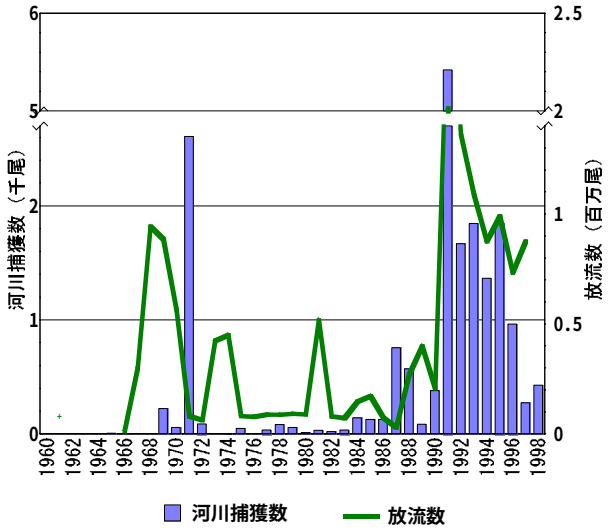


図 7. 1960-1998**年度の日本におけるベニザケの河川捕獲数と人工ふ化放流数．**